

## ■ グループ紹介

### 関西電力（株）総合技術研究所

総合技術研究所は、「革新技術の全面的導入体制の確立」をはかるための重要な柱として、昭和42年5月、それまでの研究機関を統合の上、機能を一段と強化し、当社の技術全般にわたる業務に直結した実用化研究を重点的に推進することを目的として発足し、その後、昭和53年6月に、研究課題の大形化、多様化などに対応するための組織改正を行ない、現在に至っている。

#### 研究所の組織、業務内容

現在の研究所は、1課・6室よりなり（所長以下144名）その主な所管業務は、次のとおりである。

- (1) 全社の技術研究計画、研究の進捗管理、研究予算統制、研究情報の収集・普及、工業所有権管理
- (2) 電力設備の改良・改善、運用効率化、総合運用システムに関する調査・研究
- (3) 次期電力設備全般に関する革新的技術の調査・研究
- (4) 電気・排熱の有効利用、電気エネルギーの貯蔵、自然・新種エネルギー利用技術等に関する調査・研究
- (5) 脱硫、脱硝、温排水、排煙等の環境対策技術に関する調査・研究
- (6) 構築物の構造、耐震、土質、水理等に関する調査・研究
- (7) 電力設備の性能、設備保守技術の効率化に関する試験・分析

#### 電気事業における技術開発の特徴

電気事業は、エネルギー基幹産業として、広範囲、多岐にわたる巨大な設備を有し、脱石油化のため、原子力を基本に、LNG、石炭など燃料の多様化を促進し、電力の安定確保をはかるとともに、電力設備および、その運用の総合的効率化をすすめることが、重要な責務であるので、技術開発については、多種・多様な技術分野にわたっている。

このため、当社での研究活動は、総合技術研究所が中核となり、本店各技術部門と相互に緊密な連携をとり、メーカー等の関係機関の協力のもとに効率的な推進

をはかるとともに、国や他電力との連携による大形プロジェクトの共同実施を始め、海外電気事業の諸研究機関などとも活発な情報交換を行なうなど、広く国際協調のもとに技術開発をすすめている。

#### 主な研究課題

現在、当社で取り組んでいる主な技術開発課題は、次のとおりである。

- (1) 原子力発電の一層の稼働率向上のための運転・保守管理技術、安全性向上技術および原子力利用のための基盤整備、核燃料有効利用に関連する技術
- (2) 電源立地に伴う温排水、排煙対策などの環境保全技術
- (3) 電力系統の巨大化、電源の大規模化・遠隔化、都市部負荷密度の増大などに対応した流通設備の大容量化技術
- (4) 石油代替エネルギー源としての石炭利用、太陽・風力などの自然エネルギーおよび、その他新種エネルギーの利用、電気・排熱の有効利用技術
- (5) 電力設備および、その運用に関するコンピュータの利用による高度化、自動化などの総合効率化技術

#### むすび

以上、当社の技術開発の現状について極く簡単に述べたが、1980年代は、国際石油情勢をはじめ、資源エネルギー問題など、企業をとりまく経営環境が、ますます混迷の度を深めていくと思われるので、脱石油化をはじめ、新・省エネルギー、環境対策などの技術開発に取り組み、電力安定供給の重大使命を達成するよう、努力を続けている。

(文責；和泉孝喜)